



2013~2014年度 佐世保ロータリークラブ
忘年家族会

と き：2013年12月14日(土)
と ころ：佐世保玉屋文化ホール



会長挨拶
石井正剛さん



来賓挨拶
佐世保市長
朝長則男 様



乾杯
米海軍佐世保基地司令官
チャールズW.ロック 様



HAPPY BIRTHDAY



黒木サンタから子ども達へ
クリスマスプレゼント



会長エレクト紹介
円田 昭さん



会長ノミニー紹介
田中丸善弥さん



司会
木村公康さん



総監督 遠田公夫さん
黒子 坂元 崇さん

佐世保RC一座による「水戸黄門」



ソングリーダー
高田俊夫さん



一本締め
会長エレクト
円田 昭さん

クラブ会報・広報委員会

委員 長 長富 正博
副委員 長 目黒 誠之

委 員 大久保利博・白田 浩一
城島 一彦・佐藤 淳



SASEBO WEEKLY

会 長:石井 正剛 幹 事:増本 一也
事務所:佐世保市島瀬町10-12 親和銀行本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323
例会場:佐世保玉屋8階(毎週水曜日) TEL 0956-23-8181
<http://www.sasebo-rc.jp/> E-mail:src@circus.ocn.ne.jp

平成 25 年 12 月 11 日

第 3,101 回例会

NO 23

《本 日》会員数 74 名(出席免除会員 23 名)・出席 54 名・免除者欠席 8 名・欠席 12 名・ビジター 0 名・出席率 72.97 %

《前々回》会員数 73 名(出席免除会員 23 名)・出席 44 名・免除者欠席 14 名・欠席 15 名・メイクアップ 15 名・修正出席率 100.00 %

会 長 挨拶

会長 石井 正剛さん

皆様よくご存知の池上 彰氏は、よくこんな事を言われます。「人類は有史以来、常に戦いを行ってきました。そして、多くの尊い命が奪われております」。



資料として分かる戦いで一番古いとされるのは、紀元前1285年頃、エジプトでのカンディシュの戦いとあります。その後、数限りない戦争が勃発。第一次世界大戦、第二次世界大戦を経て、21世紀の今でも、さまざまな地域で、戦争(内紛)が起きております。

槍や弓の戦争から、爆薬、化学兵器を使っている戦いに代わってきました。戦いを大きく代えたのがダイナマイトであり、その発明者がノーベルです。毎年12月10日、ノーベルの誕生日にノーベル賞の受賞式が行われております。

ノーベルは、ダイナマイトの発明で巨額の富を得ました。しかし、当時、世間のノーベルに対する評価は厳しく「死の商人」とか「可能な限りの短時間で大勢の人間を殺害する方法を発明し、富を得た人物」などと揶揄されることさえありました。

ノーベルは生涯独身で、子供もありませんでした。そこで自分の死後、財産のほとんど(当時の為替レートで168万7837ポンド)

を基金とし、物理学賞などの賞を創設するという遺言状に署名しました。(1896年死亡、この時、賞の名前は明記されておりました。)ノーベル賞の設立は、自分の死後の評価を気にした事、又、家族がいなかった事が要因であったとも言われております。

家族と言えば、ロータリーでは、12月は家族月間です。1995年~96年度RI会長 ハーバート・ブラウンは「世界平和は、地域、家族から始まる」との考えを表明し、2月の第2週を「家族週間」としていました。その後、2003年~04年度RI会長 ジョナサン・マジリアベが、家族の重要性を強調していることを受け、後に12月を「家族月間」と指定、これに伴い家族週間は廃止されました。

家族月間は、ロータリアン一人ひとりが、プロジェクトや活動を通じて家族と地域への献身を示す様に奨励されております。

「ロータリー家族」とは、ロータリアンとその家族だけでなく、ロータリーに関係する全ての人や組織で、インターアクト、ローターアクト、ロータリー財団学友、元ロータリアン、亡くなったロータリアンの配偶者などを含んでおります。

今週の土曜日は、忘年家族会です。親睦委員会で何かを企画されているようです。楽しみにしていただきたいと思っております。

又、来月1月9日からは、31名の佐世保RCの家族と共に、姉妹クラブ台南RCのご家族を訪問いたします。

例会記録

○ロータリーソング「我らの生業」

○卓話者

グラバー園 副園長 吉田 利一様

幹事報告

幹事 増本 一也さん

1. 台南RC

2013年 No1、No2 月刊が届いております。

2. 第2740地区 ガバナー 塩澤 恒雄さん 補助金委員長 西川 義文さん

①補助金セミナー開催のお知らせ

日時／2014年1月26日(日) 13:00～

場所／佐世保市労働福祉センター(稲荷町)

②2013-2014年度補助金MOU(覚書)の控え
クラブ保管の為返却

3. 武雄RC 会長 井上 俊正さん インターアクト年次大会 実行委員長

久保 泰俊さん

第2740地区2013-2014年度 インターアクト
年次大会「報告書」送付のご案内

委員会報告

■親睦活動委員会 委員長 木村 公康さん
忘年家族会開催のお知らせ

今週土曜日、玉屋7Fにおき
まして、18:30より忘年家族会
を行います。

118名のご参加を予定いたし
ております。今からでも後でもと思われた
方は、早めに事務局にご連絡ください。

又、年が明けまして、1月29日(水) 長寿祈
願祭並びに祝賀会を行います。祈願祭を
11:00より亀山八幡宮で、祝賀会を18:30より
玉屋7F文化ホールで行いますので宜しくお
願い致します。



■国際奉仕・姉妹クラブ委員会

委員長 中村 徳裕さん

台南RC創立60周年旅行説明会
について

本日の例会終了後に、この
会場におきまして、姉妹クラ
ブ台南RCの60周年記念式典へ
の訪問団ご参加の皆様への旅行説明会を、
西肥バス旅行社のご担当者にも同席いた
だき開催いたします。

平成26年1月9日(木)・10日(金)・11日(土)・12
日(日)の出発に向けて、直前の説明会です。
大切な情報もごございますので、旅行に参加
される皆さまは、是非そのままお残り頂
きますよう、よろしくお願いいたします。



■資金推進・財団・米山委員会

委員長 溝口 尚則さん

田中丸善保会員、玉野哲雄
会員より、年次プログラム基
金へご寄付頂きました。



■ローターアクト委員会

委員長 高瀬 宏滋さん

長崎国際大学RAC 第93回例会
(クリスマス例会)のお知らせ

下記の日程でクリスマス例
会を行いますので、ご多忙の
折誠に恐縮ですがローターア
クト後援の為、会員皆様のご出席をよろ
しくお願い申し上げます。

日時／2013年12月19日(木) 18:30～点鐘
例会場／ホテルオークラJRハウステンボス
登録料／4,000円

内容／短縮例会、プレゼント交換(1,000円
程度)、ゲーム、ダンス

一人1つプレゼントをご持参いただきます
ようお願い致します。

※ご出席されますと、メイクアップにもな
りますので、ご活用ください。



卓 話

『長崎観光におけるグラバー園』

グラバー園

副園長 吉田 利一様



長崎新聞社を退職し、グラバー園に勤務して8カ月。当初は新聞社時代と異なる仕事に戸惑いもありましたが、全国から訪れるお客さまと話す機会などもあり、日に日に園に慣れていく自分を感じています。

グラバー園の入園者の動向は、平成2年に開催された「長崎旅博覧会」で記録した265万人をピークに年々減少し、平成16年には85万人まで落ち込みました。現在は約92万人まで回復しており、まだまだ工夫しだいで増やす要因はあると考えています。

今年の入園者数の特徴は、2月に20周年を迎えたランタンフェスティバルが、昨年より5万人増え、100万人を超えています。その流れがそのままGWまで続き、GW期間中のグラバー園の入園者数は、昨年より約7,000人(平成24年51,046人)増の57,885人となっています。

また、昨年は尖閣諸島問題や竹島問題で中国や韓国の観光客が激減していましたが、今年の8月には約10カ月ぶりに客船「ボイジャー号」が入港し、約1,000人の中国の観光客が来園しました。今年はずでに5回入港していますので、延べ約5,000人の方が来園しています。

さらに修学旅行や台湾をはじめ、東南アジアの観光客も増加していますので、今年の入園者数は大河ドラマ「龍馬伝」の効果で来場者が増加した平成22年以来の100万人超えを期待しています。

グラバー園の施設ですが、国指定重要文化財の旧グラバー住宅(1961年指定)を中心に、旧リンガー住宅(1966年指定)、旧オルト住宅(1972年指定)の3棟をはじめ6棟の洋館建築物で構成されています。

今年、旧グラバー住宅が築150周年を迎えました。トーマス・ブレイク・グラバーが1859年(安政6年)21歳の若さで長崎にやって来ました。3年後の1862年にはグラバー商会を設立。

翌年の1863年(文久3年)には大工棟梁の小山秀之進によってグラバー邸が建てられました。建設当初はL字型の建物でしたが、庭にあった大きな松の木を取り囲むように増築を重ね現在の形になっています。

昭和30年、旧グラバー住宅は三菱重工の所有で、寮にする計画があり、取り壊すばかりになっていたそうです。郷土史家の島内八郎氏が市議会事務局長の木野普見雄氏と共に、当時の長崎造船副所長の三浦政雄氏に掛け合い、寮建設をしないよう強く要請したそうです。工事は直前で中止され、後に長崎市に寄贈されました。もし寮が完成してグラバー邸が無かったならば、今の長崎市内観光は大きく変わっていたと思います。

今年9月、旧グラバー住宅は「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとして世界遺産に推薦されました。

わたしは6年ほど前から新聞社の仕事で長崎の教会群とキリスト教関連遺産を追いかけていましたので、個人的には教会群が先に認定されて欲しかったのですが…！来年の推薦に向け応援したいと思います。

また、来年はグラバー園が開園して40周年を迎えます。計画中の関連イベントを成功させ、長崎観光を盛り上げていきたいと考えています。

* 12~1月 例会予定 *

12月25日 指定休会日

1月 1日 祝日休会

1月 8日 クラブ協議会

1月15日 指定休会日

1月22日 会員卓話 中村 徳裕さん

1月29日 (株)JTB九州

佐世保支店長 田中 尚子様

(今週の担当 城島 一彦)

(カメラ担当 長富 正博)

としている「ポリオの撲滅」は、確かに重要で誰かがやらなければならないと思います。しかし「ポリオの撲滅」は、国連、国家がすべき事であり、ロータリークラブが行うには荷が重すぎると思います。それよりも、ロータリー財団が現在行っている「ロータリー財団奨学金」等の様々な、これからの時代を背負っていく若い人々の育成に力を注ぐべきではないかと考えます。さらに近年、日本のロータリーでは、クラブ別のロータリー財団への寄付額の一覧表、会員一人あたりの寄付額等を発表されています。寄付は個人の意志ですべきであり、強制や競争で寄付額を増すべきではないと思います。

ロータリー財団への寄付及び活動方針について、この様な考え方を持っている会員がいることをわかってもらうために、今回投稿しました。

慶 祝

親睦活動委員会 松尾 貴さん

○今月の誕生祝い

田頭 慎一さん (2日)
長島 正さん (5日)
前田 文智さん (5日)
前田 勇人さん (14日)
菅沼宏比古さん (21日)



ニコニコボックス

親睦活動委員会 坂元 崇さん

石井 正剛 会長、増本 一也 幹事
納所 佳民 副幹事、土井 弘志さん
池本 仁史さん

グラバー園 副園長 吉田利一様の卓話に期待して！

安福鴻之助さん

グラバー園 吉田利一副園長 様

去る10月25日夜の、ブルゴーニュ・ワイン騎士団の会合では大変お世話になりました。色々制約のある中、園内貸し切りの晩餐会開催を認めて頂き、ありがとうございました。

全国各地からの参加者は興奮冷めやらぬ表情で長崎を後にし、私は地元のホスト役として大いに面目をほどこすことができました。

今日の卓話を楽しみにしていたのですが上京中の為、失礼いたします。

長島 正さん、前田 勇人さん

前田 文智さん

誕生祝いありがとうございます。

武井 洋一さん

家内の命日にお花をいただきありがとうございました。

見藤 史朗さん

先日のきらきら大パーティーの仮装コンテストで、西部ガスチームがなんと優勝してしまいましたので、「きらきら」ではなくて「ニコニコ」します。

ニコニコボックス

本日合計 12,000 円

累 計 463,000 円

雑誌の時間

■出席・例会委員会 前田 勇人さん

「ロータリーの友 12月号」より

12月は、家族月間で家族ぐるみでロータリーに入会されている会員さんが「われらロータリアン」で紹介された記事や、わが佐世保RCの福田金治さんが投稿された記事が掲載されるなど、盛りだくさんの内容となっています。その中で私は、TVなどでよく見かける美人ヴァイオリニストの川井郁子さんの講演について雑感を述べます。

「こどもたちの未来」というタイトルで、私が感動したポイントは2つです。

1点目の要点は、彼女の生い立ちについてです。四国香川県で生まれた彼女が、小学生時代に欲しくてたまらなかったヴァイオリンを両親からクリスマスプレゼントで買ってもらい、一生懸命練習して東京芸大に入学したこと、それから中学時代に演奏会で失敗して舞台恐怖症になったことがエピソードとして描かれています。決して音楽に恵まれた環境ではなく、普通の家庭で育ったのですが、本人が夢を持ち、その実現に向かった努力をして、今の姿があるのだなということを知りました。

ただ、視力が2.0でお客様の顔が見えずぎで、舞台恐怖症になったとは、今の堂々と演奏する彼女からは想像できませんが。今は音が飛んでいく空間を見つめることにより、その恐怖症を克服したそうです。

2点目の要点は、お子さんを授かってから、恵まれない子どもたちに支援の手を差し伸べようということで、「難民の子どもたちを支援する活動」に参加することになります。そこは国連の組織である『国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)』で、リスクがあるシリア、スーダンなど世界各地で難民の支援を行っている支援団体です。

ミャンマーから来たタイの難民キャンプ



やアフリカ・ウガンダの子どもたちがヴァイオリンを弾く彼女に食いつくように近寄ってくるのに驚かされます。こうした日本の子どもたちには見られない目の輝きと食いつき感はなんだろうと考えさせられます。

日本では、幼児虐待事件が最近よく報道されていますが、地域社会で子どもを見守り、みんなで育てていく仕組みがますます必要となってきていると思います。

私が住んでいた佐賀の新興団地も20年たち、子どもたちが少なくなり、街が寂しくなった気がします。子どもたちは「社会の宝物」という視点で、川井郁子さんのように何でもいいから支援しようという気持ちを持つことが大事だなと、このエッセイを読んで考えさせられました。

■福田 金治さん

「ロータリーの友に投稿した理由」

私がロータリーの友に、ロータリー財団について投稿した訳を説明させていただきます。

まず、ロータリー財団について説明致しますが、私も間違っていたのですが、手続要覧に詳しく載っている通り、ロータリー財団は国際ロータリーの「内部組織の一部」ではなく、国際ロータリーが設立した「非営利財団法人」で、管理運営はRI理事会が選任した管理委員たちによって行われています。日本に置き換えると「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」と同じようなものです。

ロータリー活動の原点は、投稿記事の最後に書いておりますが、佐藤パストガバナーが言われている様に「もともとロータリークラブというものは、仲間同士を助け合おう、自分の町を住みよくしよう、という身近な問題から誕生したもので、身を捨てて人類を救済しようという聖人の集まりではありません」という考えではないかと思っています。

現在、国際ロータリーが最大の活動目標

